

科目ナンバリング		U-LAS21 20006 SO48							
授業科目名 <英訳>	ドイツ語II B D2151 Intermediate German B			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 准教授 須藤 秀平				
群	外国語科目群		分野(分類)			使用言語	日本語		
旧群	C群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習(外国語)(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	月3		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
タイトル：近代ドイツにおける「啓蒙」と「真実」 思想的テキストを原文で読む									
<p>この授業では、初級ドイツ語の知識を活かして、ドイツ思想に関するテキストを原文で読みます。練習問題として用意されたドイツ語文ではなく、かつてドイツ人が実際に書いた歴史的なテキストを原文で読むことにより、ドイツ語力を高めるとともに、当時の人々の考え方を肌で感じてもらいたいと思います。</p> <p>読むのは、それまでの身分制社会に代わり、現代のような民主的な社会のあり方が目指された18世紀末のドイツで「啓蒙」や「真実」に関して交わされた議論の文書です。哲学者カントを始め、ベルリンの啓蒙家たちがどのような考えを示したのかを読み解き、現代の「ポスト真実」的状况を考えるためのヒントとします。</p> <p>中級ドイツ語ですので、初級ドイツ語の知識が必要です。基本的にはドイツ語のテキストを精読しますが、単に文の意味を把握するのではなく、原文の構造を理解した上で主張の要点を捉え、それについて自然な日本語訳を考えることを目標とします。</p> <p>テキストを各自事前に予習した上で、授業は解説を中心におこないます。履修者数によってはグループワークの形態をとり、わかったところ、わからないところをグループで話し合ってもらうこともあります。進度はみなさんの理解度に応じて適宜調整します。基礎知識をつけるためのミニ講義や小課題も予定しています。</p>									
[到達目標]									
<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語で書かれた文章の構造を理解し、内容を読み取った上で、人に伝わる日本語に訳すことができる。(技能) ・近代ドイツ思想およびその歴史的・文化的背景に関する知識を身につける。(知識・理解) ・自分自身の関心や問題意識を持ち、それについて学術的に考察する。(態度・志向性) 									
[授業計画と内容]									
<p>授業はフィードバック日を含み15回行う。</p> <p>1．オリエンテーション</p> <p>2 - 14．テキストの精読</p> <p>15．フィードバック</p>									
[履修要件]									
「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。									
[成績評価の方法・観点]									
平常点(70%)・学期末試験(30%)に基づくものとする。									
[教科書]									
<p>授業中に指示する</p> <p>授業中にプリントを配布する。</p> <p>大学生必読書であるカント『啓蒙とは何か』を始め、同時代の幾人かの啓蒙家の論考を読み解きま</p> <p style="text-align: right;">----- ドイツ語II B D2151(2)へ続く -----</p>									

ドイツ語II B D2151(2)

す。

[参考書等]

(参考書)
独和辞典が必要。

[授業外学修(予習・復習)等]

授業ではテキストの解説が中心となるため、事前の予習が重要となる。

[その他(オフィスアワー等)]

外国語を学ぶ意義はたくさんありますが、その一つに自分たちとは別の文脈で生きる人々の考え方を知ることが挙げられます。この授業では、かつてドイツ語圏の人々が実際に書いた歴史的テキストを読みます。当時どのような考え方があったのか、その背景にはどのような社会構造があったのかを知ることにより、私たちが目の前にしている現在を捉え直す視点を持ってもらいたいと思います。